

(案)

第5次地域管理経営計画書
第5次国有林野施業実施計画書

(南薩森林計画区)

計画期間

自 平成31年4月 1日

至 平成36年3月31日

九州森林管理局

(案)

第 5 次 地 域 管 理 經 営 計 画 書

(南薩森林計画区)

計画期間

自 平成 3 1 年 4 月 1 日

至 平成 3 6 年 3 月 3 1 日

九 州 森 林 管 理 局

はじめに

我が国の国土面積の2割、森林面積の3割に当たる国有林野の管理経営は、森林経営の用に供するものとされた国有財産として、①国土の保全その他国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るとともに、あわせて、②林産物を持続的かつ計画的に供給し、③国有林野の活用によりその所在する地域の産業の振興又は住民の福祉の向上に寄与することを目標として行うこととされている。

このような中で、森林に対する国民の要請は、国土の保全や水源の涵養^{かん}に加え、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり^{もり}等の面での期待が高まるなど、公益的機能の発揮に重点を置きつつさらに多様化してきた。特に、国有林野に対しては、地球温暖化防止、生物多様性の保全の面での期待が大きくなってきた。加えて、国有林野と民有林野を通じた公益的機能の発揮が強く期待されているものの、地域によっては、国有林野に隣接する民有林野において十分な整備や保全が行われていない状況もみられる。また、戦後造成した人工林が本格的な利用期を迎える中、我が国の林政は、森林・林業の再生に向け、大転換を進めており、国有林野事業については、民有林への指導やサポートなど我が国の森林・林業の再生に貢献することが求められている。

こうしたことを踏まえ、国有林野事業については、公益的機能の発揮のための事業や民有林への指導やサポート、木材の安定供給等の事業を、民有林に係る施策との一体的な推進を図りつつ、一層計画的に実施していくため、平成25年度から、それまでの特別会計により企業的に運営する事業から一般会計において実施する事業に移行した。

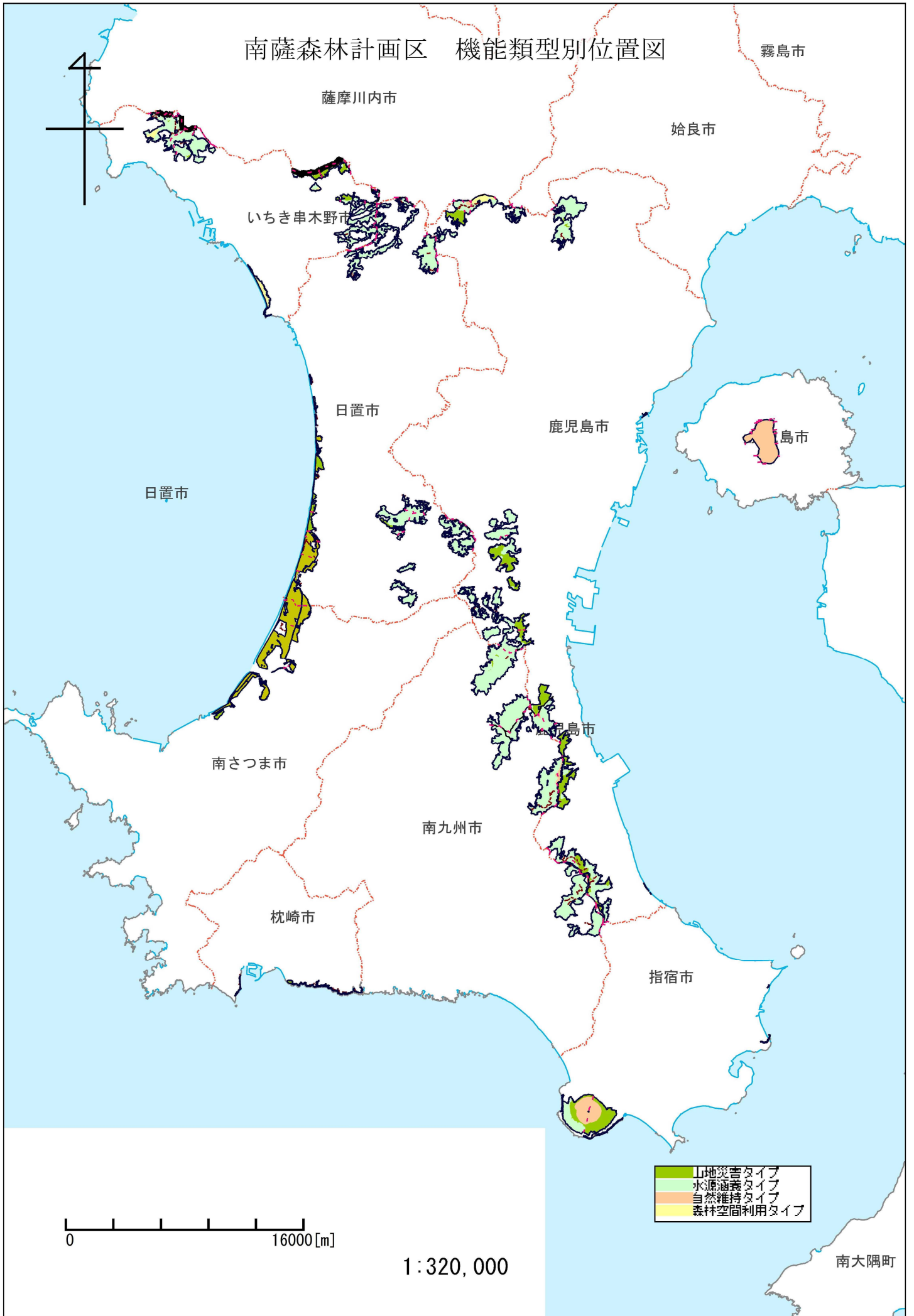
加えて、我が国では、多くの森林が利用可能な段階を迎える中で、民有林においては、森林経営管理の集約化が喫緊の課題となっており、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立を図るため、市町村が森林所有者から森林の経営管理の委託を受け、意欲と能力のある林業経営者に再委託を行い、林業経営の集積・集約化を推進するとともに、再委託できない森林及び再委託に至るまでの森林については、市町村が公的管理を行う森林経営管理制度が平成31年度から導入されることになる。あわせて、「平成30年度税制改正の大綱」において、市町村が実施する森林整備等に必要な財源に充てるため、平成31年度の税制改正において森林環境税（仮称）及び森林環境譲与税（仮称）を創設することが決定された。

これらを踏まえ、国有林野事業は、冒頭の目標の下、森林・林業や国有林野事業に対する国民の多様な要請と期待を踏まえつつ、一般会計において国民共通の財産である国有林野を名実ともに「国民の森林^{もり}」とするよう、公益重視の管理経営を一層推進するとともに、その組織・技術力・資源を活用して林業の成長産業化の実現に向け貢献するための取組を進める。

本計画は、国有林野の管理経営に関する法律（昭和26年法律第246号）第6条第1項の規定に基づいて、九州森林管理局長が、国有林野の管理経営に関する基本計画に即し、国有林の地域別の森林計画と調和させ、あらかじめ国民の意見を聴いた上で、今後5年間の南薩森林計画区における国有林野の管理経営に関する基本的な事項について定めたものである。

南薩森林計画区における国有林野の管理経営は、関係行政機関と連携を図りつつ、関係住民の理解と協力を得ながら、この計画に基づいて適切に行う。

南薩森林計画区 機能類型別位置図



目 次

1	国有林野の管理経営に関する基本的な事項	1
(1)	国有林野の管理経営の基本方針	1
①	森林計画区の概況	1
②	国有林野の管理経営の現状及び評価	3
③	持続可能な森林経営の実施方向	4
④	政策課題への対応	5
(2)	機能類型に応じた管理経営に関する事項	5
①	山地災害防止タイプにおける管理経営の指針その他 山地災害防止タイプに関する事項	5
②	自然維持タイプにおける管理経営の指針その他自然 維持タイプに関する事項	6
③	森林空間利用タイプにおける管理経営の指針その他 森林空間利用タイプに関する事項	6
④	快適環境形成タイプにおける管理経営の指針その他 快適環境形成タイプに関する事項	7
⑤	水源涵養 ^{かん} タイプにおける管理経営の指針その他水源 涵養 ^{かん} タイプに関する事項	7
(3)	森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた 貢献に必要な事項	7
①	林業の成長産業化等に向けた技術開発・実証と普及	7
②	林業事業者の育成	8
③	民有林と連携した施業や民有林材との協調出荷の推進	8
④	森林・林業技術者等の育成と森林総合監理士（フォレスター） 等による技術支援	8
⑤	その他	8
(4)	主要事業の実施に関する事項	8
①	伐採総量	9
②	更新総量	9
③	保育総量	9
④	林道の開設及び改良の総量	9
(5)	その他必要な事項	10
2	国有林野の維持及び保存に関する事項	10
(1)	巡視に関する事項	10
①	山火事防止等の森林保全巡視	10
②	境界の保全管理	10
(2)	森林病虫害の駆除又はそのまん延の防止に関する事項	10
(3)	特に保護を図るべき森林に関する事項	10
①	保護林	10
②	緑の回廊	10
(4)	その他必要な事項	10

3	林産物の供給に関する事項	1	1
	(1) 木材の安定的な取引関係の確立に関する事項	1	1
	(2) その他必要な事項	1	1
4	国有林野の活用に関する事項	1	1
	(1) 国有林野の活用の推進方針	1	1
	(2) 国有林野の活用の具体的手法	1	2
	(3) その他必要な事項	1	2
5	公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる私有林野の整備及び保全に関する事項	1	2
	(1) 公益的機能維持増進協定の締結に関する基本的な事項	1	2
	(2) 国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる私有林野の整備及び保全に関する事項	1	2
6	国民の参加による森林の整備に関する事項	1	2
	(1) 国民参加の森林に関する事項	1	2
	(2) 分収林に関する事項	1	2
	(3) その他必要な事項	1	3
7	その他国有林野の管理経営に関し必要な事項	1	3
	(1) 林業技術の開発、指導及び普及に関する事項	1	3
	(2) 地域の振興に関する事項	1	3
	(3) その他必要な事項	1	3

1 国有林野の管理経営に関する基本的な事項

(1) 国有林野の管理経営の基本方針

国有林野の管理経営は、国有林野の管理経営に関する基本計画に即するとともに、国有林の地域別の森林計画と調和して、機能類型区分等による公益重視の管理経営を一層推進するとともに、その組織・技術・資源を活用して林業の成長産業化の実現に貢献することを基本方針とする。

なお、当該森林計画区における概要等は以下のとおり。

① 森林計画区の概況

本計画の対象は、南薩森林計画区を管轄区域とする国有林野9,944ha(不要存置林野4haを含む。)であり、薩摩半島及び鹿児島湾中央の桜島に位置し、薩摩半島の南北に300m～500m前後の基盤岩山地が分布し、また、火砕流堆積物からなる台地が発達している。これらを境に東シナ海と鹿児島湾に注ぐ河川の源流部及び海岸周辺に位置し、八重山山系に属する日置北部と金峰山系を中心とした地域である。シラス地域には、幾つかの特有の地形が発達し、樹枝状で斜面の浸食が非常に進んだ、複雑な深い谷が発達しているところもある。

森林の現況は、人工林を主体とした育成林が6,233ha(育成単層林5,810ha、育成複層林423ha)、天然生林が2,932haとなっており、主な樹種としては針葉樹はスギ、ヒノキ、クロマツ、広葉樹ではカシ類、シイ類、クスノキなどとなっている。また、林相別に見ると針葉樹林4,835ha、針広混交林1,821ha、広葉樹林2,509haとなっている。

また、本計画区は、日本三大砂丘の一つである「吹上浜」など長大な砂丘海岸線と優れた森林景観にも恵まれており、霧島錦江湾国立公園及び吹上浜県立自然公園等にも指定され、森林レクリエーション、保健休養の場として多くの人に利用されている。また、森林資源を利用した木材加工業等も地域の重要な産業である。

こうしたことを踏まえ、各地区ごとに重点的に行うべき管理経営は次のとおりである。

ア 串木野地区(2001～2007、2012、2095～2097林班)

冠岳地区は、串木野ダムの上流域に位置しており、山地災害防止機能及び水源涵養機能^{かん}の発揮が期待されていることから「山地災害防止タイプ」と「水源涵養タイプ」^{かん}に区分して管理経営を行う。

また、羽島地区は、下流には県道が通過し集落も点在しており、山地災害防止機能や水源涵養機能^{かん}の発揮が期待されることから、「山地災害防止タイプ」と「水源涵養タイプ」^{かん}に区分して管理経営を行う。

さらに、一部はカシ類、シイ類等を主体とした地域固有の天然生広葉樹の森林で、地域の象徴的景観ともなっており、優れた景観の提供及び風致の維持を図ることが期待されていることから「森林空間利用タイプ」に区分して管理経営を行う。

イ 市来・郡山地区(51～65林班)

市来ダムの上流域に位置しており、一般に急峻な上昇及び平衡斜面を有しており、山地災害防止機能や水源涵養機能^{かん}の発揮が期待されていることから、「山地災害防止タイプ」と「水源涵養タイプ」^{かん}に区分して管理経営を行う。

また、八重山周辺は、天然林で緑豊かな自然環境及び風致の維持を図ることが期待されていることから「自然維持タイプ」と「森林空間利用タイプ」に区分して管理経営を行う。

本名及び湯田周辺の一部については、民有林との連携も念頭に置きつつ、機能類型区分に応じた適切な施業の結果得られる木材の持続的かつ計画的な供給に努める。

ウ 桜島地区（86林班）

鹿児島湾の中央に位置し、御岳、中岳、南岳からなる活火山の地区である。地形、地質等の自然的条件から山地災害防止機能の重点的な発揮が期待されるとともに、霧島錦江湾国立公園に指定されており、自然環境の保全・形成を図ることが期待されていることから「自然維持タイプ」に区分して管理経営を行う。

エ 吹上浜地区（67～82林班）

東シナ海に面した全長約28kmに及ぶ標高 100m以下のほぼ平坦な砂丘地で、そのほとんどが1～187年生のクロマツを主体とした海岸林である。

吹上浜一帯は、ほとんどが保健、飛砂防備等保安林及び吹上浜県立自然公園に指定されており、保健休養の機能や風害、潮害等の気象害防止機能の発揮が期待されることから、「山地災害防止タイプ」と「森林空間利用タイプ」に区分し、管理経営を行うとともに、森林をフィールドとしたボランティア活動に参加したいという要望に応えるため国民の自主的な森林整備活動の場として「ふれあいの森」の協定締結を促進し、国民による国有林野の積極的な利用を推進する。

オ 谷山・吹上・知覧地区（3～19、21～49、84林班）

薩摩半島の中央部、鹿児島湾寄りの南端に細長く位置し、起伏を繰り返しながら南へ数個の山塊を連ね、薩摩半島南部で一つの支脈は池田湖・開聞岳に連なり、他の支脈は丘陵性の極めて穏やかな標高と傾斜を保ちながら西走し野間岳に連なっている。

東側斜面は急峻な地形を呈しており、山地災害防止機能や水源涵養機能の発揮が期待されていることから「山地災害防止タイプ」と「水源涵養タイプ」に区分して管理経営を行う。

また、白岳周辺は、国有林内の主稜線を通過している指宿スカイラインに隣接しており、観光、保養等の利用者が増大の傾向にあり、自然環境の保全・形成を図ることが期待されていることから「自然維持タイプ」に区分して管理経営を行う。

さらに、西側は長い斜面を有する緩傾斜地が多いため、民有林との連携も念頭に置きつつ、機能類型区分に応じた適切な施業の結果得られる木材の持続的かつ計画的な供給に努める。

カ 開聞岳地区（1、2、85林班）

薩摩半島南端の開聞岳一帯にあり、タブノキ、スタジイ、マテバシイ等の天然林が大半を占めている。開聞岳は一般に薩摩富士と称される多量の火山噴出物に覆われた成層火山と山頂部は溶岩ドームからなる二重構造の火山で急峻な地形である。

開聞岳山頂部分及び海岸線は、霧島錦江湾国立公園に指定されており、観光、保養等の利用者が増加の傾向にあり、自然環境の維持と森林空間の総合的利用に対応した森林整備を図ることが期待されていることから「自然維持タイプ」と「森林空間利用タイプ」に区分して管理経営を行う。

また、開聞岳中腹部分は、地形、地質等の自然的条件から特に山地災害防止機能や水源涵養機能の発揮が期待されていることから「山地災害防止タイプ」と「水源涵養タイプ」に区分して管理経営を行う。

さらに、開聞岳南西部の下部の緩斜面の一部については、民有林との連携も念頭に置き

つつ、機能類型区分に応じた適切な施業の結果得られる木材の持続的かつ計画的な供給に努める。

② 国有林野の管理経営の現状及び評価

本計画区の国有林は、鹿児島森林管理署で管理経営しており、本計画の対象とする国有林野面積は9,940haで九州森林管理局管内国有林総面積の2%を占めている。

蓄積は2,539千m³で九州森林管理局総蓄積の2%を占めている。また、人工林面積は5,818haで人工林率は63%となっている。

森林の種類は、普通林が1,772 haで18%を占めており、制限林が8,168 haで82%となっている。なお、制限林の96%が保安林であり、そのうち水源かん養保安林が72%を占めている。

南薩森林計画区内の森林資源状況

(単位：ha、m³)

区 分	人工林	天然林	その他	合計
面 積	5,818	3,348	774	9,940
蓄 積	1,962,018	577,187	—	2,539,205

主要施策に係る前計画における計画量と実行量について下表に示す。

伐採立木材積については、主伐は地域における木材の安定供給を図るため、分収造林等の契約林を主に計画したが、分収林の契約延長等により計画量を下回る結果となり、これに連動して造林面積も計画量を下回った。

また、間伐については、地球温暖化防止対策等に資する森林整備の推進を図るため実行したが計画量を下回る結果となった。

林道の開設及び改良については、施業予定を考慮し、より優先度の高いものから実行したが、計画量を下回る結果となった。

主要施策に係る計画量と実行量

項 目	計 画	実 行
伐採立木材積	362,900 m ³	105,830 m ³
主伐	170,000 m ³	34,409 m ³
間伐	192,900 m ³	71,421 m ³
造林面積	237 ha	28 ha
人工造林	229 ha	28 ha
天然更新	8 ha	0 ha
林道等の開設又は改良	開設：14.9km 改良：5箇所	開設：8.3km 改良：3箇所

③ 持続可能な森林経営の実施方向

国有林野の管理経営に当たっては、開かれた「国民の森林」の実現を図り、現世代とともに将来世代へ森林からの恵沢を伝えるため、住民の方々の意見を聴き、機能類型区分や森林の適切な整備・保全等による持続可能な森林経営に取り組んでいく。

また、持続可能な森林経営については、日本はモントリオール・プロセスに参加しており、この中で森林経営の持続可能性を客観的に把握し評価するための7基準（54指標）が示されている。本計画区の国有林野について、この基準を参考に取り組んでいる施策及び森林の取扱方針を整理すると次のとおりとなる。

<p>I 生物多様性の保全</p>	<p>地域の特性に応じた多様な森林生態系を保全していくため、針広混交林等からなる多様な林相の森林を整備及び保全していくとともに、貴重な野生動植物が生息・生育する森林について適切に保護・保全するほか、施業を行う場合でも適切な配慮を行う。関連する主な施策として、厳格な保全・管理を行う保護林のモニタリング調査等を通じた適切な保全・管理等を推進するとともに、原生的な天然林や里山林、溪畔林、保護樹帯等を各々の林相に応じた適切な整備・保全を行い、森林生態系のネットワークの構築を図る。</p>
<p>II 森林生態系の生産力の維持</p>	<p>森林としての成長力を維持し健全な森林を整備していくため、間伐等の適切な実施と伐採後の更新確保による健全な森林の整備とともに、公益的機能の発揮と両立した木材の生産を行う。関連する主な施策として、計画、設計、施工の各段階において森林生態系との調和を図りつつ、林道、作業道等の適切な組合せによる路網の計画的な整備を推進する。</p>
<p>III 森林生態系の健全性と活力の維持</p>	<p>外部環境から受ける影響から森林の劣化を防ぐため、森林病虫害や山火事等から森林を保全するとともに、被害を受けた森林の回復を行う。関連する主な施策として、松くい虫の被害のまん延防止のため、薬剤による防除、伐倒駆除等に取り組むとともに、シカによる森林被害の状況を踏まえ、被害防除対策を実施する。</p>
<p>IV 土壌及び水資源の保全と維持</p>	<p>降雨に伴う浸食等から森林を守るとともに、森林が育む水源の涵養のため、山地災害により被害を受けた森林の整備、復旧や公益的機能の維持のために必要な森林の保全を行うとともに、森林施業においても裸地化する期間の短縮や尾根筋や沢沿いでの森林の存置を行う。関連する主な施策として、安全・安心に暮らせる環境づくりを目指して、民有林と国有林が連携した効果的な治山対策に取り組む。</p>
<p>V 地球の炭素循環への森林の寄与の維持</p>	<p>地球温暖化防止に貢献するため、吸収源となる森林を確保するため育成林の整備を推進するとともに、天然生林の保全を行うほか、森林整備の円滑な推進と二酸化炭素の貯蔵庫として機能を維持するため木材利用を推進する。関連する主な施策として、除間伐を主体に森林整備を推進するとともに、治山事業における間伐材等の利用促進や間伐材を使用した紙製品の普及に取り組む。</p>
<p>VI 社会の要望を満たす長期的・多面的な社会・経済的便益の維持及び増進</p>	<p>国民の森林に対する期待に応えるため、森林が有する多面的機能の効果的な発揮とともに、森林浴や森林ボランティア、環境教育等森林と人とのふれあいの確保のためのフィールドの提供等や森林施業に関する技術開発等に取り組む。関連する主な施策として、「レクリエーションの森」のPRや施設整備等に努めるなど、「国民の森林」として充実を図るとともに、学校のカリキュラムへの森林環境教育の導入、「遊々の森」の設定の推進、教職員を対象とした森林教室の実施等、学校との連携の強化に取り組む。</p>
<p>VII 森林の保全と持続可能な経営のための法的、制度的及び経済的枠組</p>	<p>I～VIで記述した内容を着実に実行し「国民の森林」として開かれた管理経営を行うため、国有林野に関連する法制度に基づく各計画制度の適切な運用はもとより、管理経営の実施に当たっては国民の意見を聴きながら進めるとともに、モニタリング等を通じて森林資源の状況を把握する。関連する主な施策として、国有林モニターを活用し、国有林野事業等に対する意見、要望等を聴取するとともに、国有林野事業の運営等について国民の理解の促進を図る。</p>

④ 政策課題への対応

本計画区の国有林では、国土保全や水源涵養等の公益的機能の維持増進、林業の成長産業化の実現に向けた取組、森林環境教育や森林とのふれあい、国民参加の森林づくりの推進、地球温暖化防止や生物多様性の保全などの政策課題に対応している。

さらに、林業の成長産業化の実現に向けた取組としては、低コストで効率的な施業技術の普及、計画的な事業の発注による林業事業者の育成、民有林・国有林一体となった森林共同施業団地の設定、ケーススタディ地区等における森林総合監理士（フォレスター）等による市町村に対する技術的支援等に取り組んでいるところである。

(2) 機能類型に応じた管理経営に関する事項

公益的機能の維持増進を旨とした管理経営を行うため、

- ・ 山地災害防止タイプ（土砂流出・崩壊防備エリア、気象害防備エリア）
- ・ 自然維持タイプ
- ・ 森林空間利用タイプ
- ・ 快適環境形成タイプ
- ・ 水源涵養タイプ

の機能類型区分を行い、各機能の発揮を目的とした管理経営を行う。

なお、地域別の森林計画における公益的機能別施業森林との関係は下表のとおり。

○ 機能類型と公益的機能別施業森林の関係

機能類型		公益的機能別施業森林			
		水源涵養機能維持増進森林	山地災害防止機能／土壌保全機能維持増進森林	快適環境形成機能維持増進森林	保健機能維持増進森林
山地災害防止タイプ	土砂流出・崩壊防備エリア	○	○		
	気象害防備エリア	○	○	○	
快適環境形成タイプ		○		○	
水源涵養タイプ		○			
自然維持タイプ		○	○		○
森林空間利用タイプ		○	○		○

また、機能類型区分に応じた管理経営に当たっては「管理経営の指針」（別冊）によるほか、次の点に留意して、個々の森林の自然条件や社会的条件を踏まえて適切に行う。

なお、各機能の発揮を図るために導入する林相の維持・改良等に必要な施業により生じる木材については、有効利用を図る。また、齢級構成の平準化・バイオマス利用等の地域ニーズに応じた主伐を計画的に行うことにより木材の供給を図る。

① 山地災害防止タイプにおける管理経営の指針その他山地災害防止タイプに関する事項

山地災害防止タイプは、土砂の流出・崩壊、落石等の山地災害による人命・施設の被害の防備その他災害に強い国土基盤の形成に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、次の事項に留意して、保全対象と当該森林の位置的關係、地質や地形等の地況、森林現況等を踏まえた適切な管理経営を行う。

ア 土砂流出・崩壊防備エリア

山地災害防止タイプのうち、土砂流出・崩壊防備エリアでは、根系が深くかつ広く発達し、常に落葉層を保持し、適度の陽光が入ることによって下層植生の発達が良好であり、必要に応じて土砂の流出、崩壊を防止する治山施設等が整備されている森林を整備の目標とする。

イ 気象害防備エリア

山地災害防止タイプのうち、気象害防備エリアでは、樹高が高く下枝が密に着生しているなど遮蔽能力が高く、諸被害に対する抵抗性の高い樹種によって構成される森林を目標とする。

山地災害防止タイプの面積

(単位：ha)

区 分	山地災害防止タイプ	うち、土砂流出・崩壊防備エリア	うち、気象害防備エリア
面 積	2,840	1,081	1,759

② 自然維持タイプにおける管理経営の指針その他自然維持タイプに関する事項

自然維持タイプは、原生的な森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存等自然環境の保全に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、原則として自然の推移に委ねるとともに、生物多様性の保全等に配慮した管理経営を行う。

自然維持タイプの面積

(単位：ha)

区 分	自然維持タイプ	うち、保護林
面 積	687	—

③ 森林空間利用タイプにおける管理経営の指針その他森林空間利用タイプに関する事項

森林空間利用タイプは、スポーツ又はレクリエーション、教育文化、休養等の活動の場及び優れた景観の提供に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、それぞれの保健・文化的利用の形態に応じた管理経営を行う。

森林空間利用タイプの面積

(単位：ha)

区 分	森林空間利用タイプ	うち、レクリエーションの森
面 積	138	—

④ 快適環境形成タイプにおける管理経営の指針その他快適環境形成タイプに関する事項

快適環境形成タイプは、騒音の低減や大気の浄化、木陰の提供等による気象緩和等人間の居住環境を良好な状態に保全する機能を重点的に発揮すべき森林であり、それぞれの機能に応じた管理経営を行う。

快適環境形成タイプの面積

(単位：ha)

区 分	快適環境形成タイプ
面 積	—

⑤ 水源涵養タイプにおける管理経営の指針その他水源涵養タイプに関する事項

水源涵養タイプは、国民生活に欠かせない良質で豊かな水の供給に係る機能を重点的に発揮すべき森林であり、渇水緩和や水質保全等の水源涵養機能を高めるため、浸透・保水能力の高い森林土壌の維持及び根系や下層植生の発達が良好で諸被害に強い森林の整備を目標として管理経営を行う。なお、これら条件の維持できる範囲で森林資源の有効利用に配慮する。

水源涵養タイプの面積

(単位：ha)

区 分	水源涵養タイプ
面 積	6,275

(3) 森林の流域管理システムの下での森林・林業再生に向けた貢献に必要な事項

民有林関係者と連携して推進する森林の流域管理システムの下、森林の有する多面的機能の持続的発揮を基本としつつ、我が国の森林・林業の再生に貢献していくため、南薩流域森林・林業活性化協議会等において、県・市町村等との密接な連携を図るとともに、組織・技術力・資源を活用し、民有林経営の支援等に積極的に取り組む。

特に、民有林においては、森林経営管理制度が導入されることから、国有林においてはこの制度が円滑に機能するよう積極的に取り組む。

また、これらを通じて、木材の生産から利用までの全ての段階において生産性向上やコストの低減、歩留まりの向上等による林業及び木材産業の成長産業化の実現に貢献し、地域経済の発展や山村地域の振興に寄与するよう努める。

① 林業の成長産業化等に向けた技術開発・実証と普及

産学官連携の下、林業の低コスト化に向けた技術開発の推進に努め、列状間伐や路網と高性能林業機械を組み合わせた高効率・低コストな作業システムの定着や低コスト造林の導入・定着を図る。

国有林野事業において開発、改良された林業技術については、現地検討会の開催、モデル林、各種試験地等の設置等を通じて、地域林業関係者等への普及・定着を図る。

② 林業事業体の育成

民有林行政と連携しつつ、林業事業体への計画的な事業の発注、安定的・計画的な木材の供給及び林業事業体の育成に努める。あわせて、森林経営管理制度の定着に向けては、民有林において事業を実施する意欲と能力のある林業経営者の育成が重要であることから、国有林野事業に係る事業を委託する場合にはこうした林業経営者の受注機会の拡大に配慮する。

さらに、流域で生産された木材の利用促進、システム販売の推進及び木質バイオマス資源の活用に向けた木材需給情報の交換に努める。

③ 民有林と連携した施業や民有林材との協調出荷の推進

森林共同施業団地の設定により、民有林・国有林一体となった効率的な路網の整備、計画的な間伐の実施、民有林材との協調出荷等に努める。

森林共同施業団地の概況

箇所数	面積(ha)	
	国有林	民有林
2	1,616	4,399

④ 森林・林業技術者等の育成と森林総合監理士（フォレスター）等による技術支援

事業の発注や研修フィールドの提供等を通じて、民有林の人材育成支援に努める。また、県と連携して市町村の森林・林業行政等に対する技術支援に積極的に取り組む。

⑤ その他

国民の森林^{もり}としての管理経営を推進する観点から、森林環境教育の推進、生物多様性の保全に係る取組の推進（関係機関と連携した野生鳥獣被害対策の実施等）、安全・安心の取組に係る情報提供等に努める。

(4) 主要事業の実施に関する事項

本計画及び前計画期間における伐採、更新、保育及び林道の事業総量は以下のとおりである。

事業の実施に当たっては、効果的かつ効率的な実施に努め、国土の保全、自然環境の保全、生物多様性の保全等に十分配慮しつつ、森林吸収源対策として間伐に積極的かつ着実に取り組むとともに、針広混交林化、複層林化、長伐期化や里山の整備等、地域の現況を踏まえ、多様で健全な森林の整備・保全を推進する。

なお、森林資源の成熟に伴い主伐が増加していく中で、その実施に際しては、自然条件や社会的条件を考慮して実施箇所を選定するとともに、造林コストや花粉の少ない森林への転換、鳥獣被害等に配慮しつつ、公益的機能の持続的な発揮と森林資源の循環利用の観点から確実な更新を図る。

更新・保育については、伐採事業との一体的な実施や新たな林業技術の導入等による造林・育林作業の低コスト化に取り組む。

林道等の路網については、森林の公益的機能が高度に発揮されるよう施業方法に応じて計画的に整備する。その際、特に自然・社会的条件の良い森林において重点的な整備を推進する。

また、労働災害がなく、健康で明るく働けるように労働安全衛生の確保に努めるとともに、計画的な事業の発注等により林業事業体の育成を図る。

① 伐採総量

(単位：m³、ha)

区 分	主 伐	間 伐	計
本 計 画	172,884	169,552 (1,453)	342,436 [18,164]
前 計 画	170,000	192,900 (1,757)	362,900

注1 () は、間伐面積である。

2 [] は、臨時的な伐採量で外書き。

② 更新総量

(単位：ha)

区 分	人工造林	天然更新	計
本 計 画	291	5	296
前 計 画	229	8	237

③ 保育総量

(単位：ha)

区 分	下 刈	つる切	除 伐	ぼう芽整理
本 計 画	544	25	7	—
前 計 画	277	6	49	—

④ 林道の開設及び改良の総量

区 分	開 設		改 良	
	路線数	延長量(m)	箇所数	延長量(m)
数 量	15	15,900	14	9,400

- (5) その他必要な事項
該当なし。

2 国有林野の維持及び保存に関する事項

(1) 巡視に関する事項

① 山火事防止等の森林保全巡視

本計画区には、森林レクリエーションを目的とした森林への入込みや山菜採りでの利用者が多く、入り込み者は増加の一途をたどっている。特に、春期は山菜採りと乾燥期のシーズンと重なり、山火事発生の危険が増大している。

このため、地元市町村等関係機関との連携を密にして標識類の整備、山火事防止の宣伝、啓発活動、森林火災訓練等に努めるとともに、森林保全巡視を強化し、山火事の未然防止に万全を期する。

また、廃棄物の不法投棄については、地元市町村等関係機関、林業事業者及びボランティア団体との連携の強化を図り防止に努める。

② 境界の保全管理

境界標の巡検及び境界巡視を確実にを行い、境界の保全管理に努める。

(2) 森林病虫害の駆除又はそのまん延の防止に関する事項

森林病虫害による被害の早期発見及び早期駆除を図るために、適切な森林の巡視に努める。特に松くい虫被害については、適切な防除により被害のまん延防止に努める。

(3) 特に保護を図るべき森林に関する事項

貴重な自然環境を有する天然林等については、適切に保護・保全を図っていく。

① 保護林

種 類	箇所数	面積(ha)
該当なし		

② 緑の回廊

名 称	延長(km)	面積(ha)
該当なし		

(4) その他必要な事項

本計画区の国有林野の大半が水源かん養保安林に指定されているなど、水源涵養^{かん}の上で重要な森林が多く存在することから、保安林等の適切な管理に努める。

深刻化しているニホンジカなどの野生鳥獣による森林被害については、その防止に向け、鳥獣保護管理施策や農業被害対策等との連携を図りつつ、森林被害のモニタリングを推進し、

その結果を踏まえて、地元行政機関、狩猟者団体、森林組合、森林所有者等と協力して計画的に捕獲や防護柵の設置等の防除活動等を総合的かつ効果的に推進する。

また、自然災害等により劣化した森林の再生・復元に努めるとともに、ボランティア団体等と協働・連携し、荒廃した植生の回復措置を行うなど、森林生態系の保全等のための取組について、環境行政との綿密な連携を確保しつつ推進する。

さらに、台風など自然の脅威にさらされている地域であることから、事業実行に当たっては水源の涵養、山地災害の防止、景観の保持等に十分に配慮する。

溪流沿いや尾根筋等の森林については、保護樹帯等として保全することを通じて、生物多様性の保全に努める。

3 林産物の供給に関する事項

(1) 木材の安定的な取引関係の確立に関する事項

国有林材の計画的・安定的な供給を通じて、地域における安定供給体制の整備や木材の新たな需要の拡大、原木の加工・流通の合理化等に資するため、需要先と事前に協定を締結し、その協定に基づき計画的に丸太を供給する安定供給システム販売に取り組む。

さらに、民有林・国有林が連携しつつ合理的な販売・流通体制の確立を目指し、国産材の需要・販路の拡大に努める。

(2) その他必要な事項

林産物の供給に当たっては、効果的かつ効率的な取組を推進することとし、間伐材の利用促進に当たっては、列状間伐や路網と高性能林業機械を組み合わせた高効率・低コストな作業システムの定着を図りつつ、素材販売により実施するとともに、これまで未利用であった低質材等を木質バイオマス資源として利用できるよう安定供給に努める。

また、木造の庁舎等の整備、森林土木工事等の公共工事において間伐材等を積極的に利用する等、木材利用の促進に取り組む。

4 国有林野の活用に関する事項

(1) 国有林野の活用の推進方針

国有林野の活用に当たっては、地域の社会的・経済的状況、住民の意向等を考慮して、また、地域における産業の振興、住民の福祉の向上等に資するよう、国有林野の管理経営との調整を図りつつ、積極的に推進する。

本計画区は、都市部からも比較的近く、豊かな自然景観にも恵まれ、従来からハイキング・登山・キャンプ等レクリエーションの場として利用されている。都市部の緑の減少、ストレス社会、高齢化社会への移行等の時代を背景に、快適な環境の一部として、精神的豊かさを養う場として、さらには健康的で活動的な場として森林に対する期待が高まっていることから、従来からのレクリエーションの場としての利用に加え、国民が直接森林とふれあうことの出来る保健・文化・教育的な面も併せた森林空間の総合的な利用に対応した森林資源の整備を推進する。

レクリエーションの森

種 類	箇所数	面 積(ha)
該当なし		

(2) 国有林野の活用の具体的手法

国有林野の活用に当たっては、道路等の公用・公共用地等については貸付又は売払い等による。また、水源林造成等については分収林制度を積極的に活用する。

(3) その他必要な事項

国有林野の活用に当たっては、水源の涵養、自然環境の保全等の森林の持つ公益的機能との調和を図るとともに、土地利用に関する計画等との必要な調整を行った上で、積極的に推進する。

5 公益的機能維持増進協定に基づく林道の開設その他国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項

(1) 公益的機能維持増進協定の締結に関する基本的な事項

国有林に隣接・介在する民有林の中には、小規模で孤立分散し立地条件が不利であること等から森林所有者等による施業が行われず、当該民有林における土砂の流出等の発生が国有林の発揮する国土保全等の機能に悪影響を及ぼすなど、国有林の公益的機能の維持増進への支障となることが懸念される場合がある。

このような場合、国有林の有する公益的機能の維持増進を図るために有効かつ適切なものとして、森林施業の集約化を図るための林道や森林作業道の開設とこれらの路網を活用した施業等を民有林と一体的に行い、民有林の有する公益的機能の維持増進にも寄与するよう、公益的機能維持増進協定制度の活用を努める。

(2) 国有林野と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林野の整備及び保全に関する事項

公益的機能維持増進協定の締結に当たっては、民有林の森林所有者等にも原則として相応の費用負担を求めるなど、合理的な役割分担の下での一体的な森林の整備及び保全の実施に向けた条件整備を進める。

6 国民の参加による森林の整備に関する事項

(1) 国民参加の森林に関する事項

ボランティア団体等との協定に基づく「ふれあいの森」等により、国民の自主的な参加による森林整備活動等を推進する。

ふれあいの森

名 称	面積 (ha)	位置 (林小班)
該当なし		

(2) 分収林に関する事項

森林に対する国民の要請が多様化する中で、社会貢献活動として森林づくりに自ら参加・協力したいという企業等の要請に応えるため、分収林制度の活用による森林整備を推進する。

(3) その他必要な事項

協定の締結により継続的に体験活動ができる「遊々の森」等を活用して、豊かな自然環境を有する国有林野を多様な体験活動の場として積極的に提供し、森林環境教育の推進に努める。

また、教職員やボランティアのリーダー等に対する普及啓発や技術指導、森林環境教育のプログラムや教材の提供等を積極的に推進する。

さらに、森林管理署等は、国民参加による森林の整備・保全等に関する情報の提供、国民からの相談への対応、国民参加の支援を行う拠点としての機能を発揮するよう努める。

名 称	面積 (ha)	位置 (林小班)
青松の森	7.17	67い、ろ7、ろ8、は5、と、と3、と4
八重の ^{もり} 森林	0.49	55て1
入来浜白砂青松の ^{もり} 森林	2.31	73ぬ、る、る1

7 その他国有林野の管理経営に関し必要な事項

(1) 林業技術の開発、指導及び普及に関する事項

研究機関等が行う林業技術の開発及び林業機械の導入試験等に対しては、フィールド提供を積極的に行う。

(2) 地域の振興に関する事項

機能類型に応じた適切な管理経営を行い、山地災害の防止、水源の^{かん}涵養、自然環境の保全、保健・文化・教育的利用、木材の安定供給等を通じて地域振興に寄与するよう努める。また、その際には次の点に留意する。

- ① 分収造林及び国有林野の利活用の要請に対しては積極的に対応する。
- ② 林道については、地域の実態を踏まえ、生活道路としての機能の発揮に十分留意する。
- ③ 蜂蜜の採取源となる樹種については、事業実行との調整を図りつつ、その保全に努める。

(3) その他必要な事項

該当なし。

(案)

第5次国有林野施業実施計画書

(南薩森林計画区)

計画期間

自 平成31年4月 1日

至 平成36年3月31日

九州森林管理局

目 次

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域	1
2	施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量	1
	(1) 伐採造林計画簿	1
	(2) 水源涵養 ^{かん} タイプにおける施業群別面積等	1
	(3) 水源涵養 ^{かん} タイプの施業群別の上限伐採面積	2
	(4) 伐採総量	2
	(5) 更新総量	3
	(6) 保育総量	3
3	林道の整備に関する事項	4
4	治山に関する事項	5
5	保護林及び緑の回廊の名称及び区域	5
	(1) 保護林の名称及び区域	5
	(2) 緑の回廊の名称及び区域	5
6	レクリエーションの森の名称及び区域	5
7	公益的機能維持増進協定の名称及び区域	5
8	その他必要な事項	6
	(1) 施業指標林、試験地等	6
	(2) フィールドの提供	6
	(3) 森林共同施業団地	6
	(4) その他	7

- 1 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域
 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域の配置については、国有林野施業実施計画図による。
- 2 施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量
 (1) 伐採造林計画簿
 伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、伐採造林計画簿に示すとおりである。

(2) 水源涵養^{かん}タイプにおける施業群別面積等 (単位：ha)

施業群		面積	取扱いの内容	伐期齢等
施業群	スギ・ヒノキ普通伐期	1,248.97	伐採箇所の縮小、分散化による皆伐新植を行う	スギ 40～60 ヒノキ45～70
	スギ長伐期	616.10	伐採箇所の縮小、分散化、長期化による皆伐新植を行う	70～100
	ヒノキ長伐期	2,602.07	同上	80～120
	アカマツ長伐期	78.40	同上	80
	ケヤキ長伐期	0.67	同上	150
	その他人工林	29.29	伐採箇所の縮小、分散化による皆伐新植を行う	60上
	保護樹帯	239.26	被害木等について択伐を行う	60
	スギ・ヒノキ複層林	23.44	伐採箇所の縮小、分散化による複層伐を行う	短期型 80 長期型 100
	天然林	1.20	伐採箇所の縮小、分散化による皆伐を行う	60上
	天然林長伐期	542.23	伐採箇所の縮小、分散化、長期化による択伐及び皆伐を行う	100
	天然林広葉樹	750.70	伐採箇所の縮小、分散化による択伐及び皆伐を行う	35上
施業群設定外	—			
合計	6,132.33			

注 スギ・ヒノキ普通伐期のスギ40～60年、ヒノキ45～70年及びスギ長伐期70～100年、ヒノキ長伐期80～120年は、地域管理経営計画の経常樹立年度において逐次、それぞれ60年、70年、100年、120年伐期に移行させることを含む。

(3) 水源涵養^{かん}タイプの施業群別の上限伐採面積 (単位：ha)

施業群	上限伐採面積
スギ・ヒノキ普通伐期	89
スギ長伐期	30
ヒノキ長伐期	108
アカマツ長伐期	4
その他人工林	2
保護樹帯	19
スギ・ヒノキ複層林	2
天然林長伐期	27
天然林広葉樹	107

(4) 伐採総量

(単位：m³、ha)

区分	林地					林地以外	合計
	主伐	間伐	小計	臨時伐採量	計		
山地災害防止タイプ	—	41,518 (352)	41,518				
自然維持タイプ	—	—	—				
森林空間利用タイプ	—	274 (3)	274				
快適環境形成タイプ	—	—	—				
水源涵養 ^{かん} タイプ	スギ・ヒノキ普通伐期	165,196	192	165,388			
	スギ長伐期	492	18,063	18,555			
	ヒノキ長伐期	—	109,505	109,505			
	アカマツ長伐期	2,895	—	2,895			
	スギ・ヒノキ複層林	2,199	—	2,199			
	天然林広葉樹	2,102	—	2,102			
	計	172,884	127,760 (1,097)	300,644			
合計	172,884	169,552 (1,453)	342,436	18,164	360,600	—	360,600
年平均	34,577	33,910 (291)	68,487	3,633	72,120	—	72,120

注1 () は、間伐面積である。

2 間伐面積の合計と内訳が一致しないのは、四捨五入によるものである。

(再掲) 市町村別内訳

(単位: m³)

市町村名	林 地					林地以外	合 計
	主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐採量	計		
鹿児島市	49,799	68,508	118,307	/	/	/	/
日置市	19,702	25,761	45,463				
いちき串木野市	32,274	36,355	68,629				
南九州市	71,109	38,928	110,037				

注 臨時伐採量及び林地以外の土地に係る伐採量は含まない。

(5) 更新総量

(単位: ha)

区 分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源涵養 タイプ ^{かん}	合 計
人工造林	単層林成	—	—	0.49	—	286.55	287.04
	複層林成	—	—	—	—	4.44	4.44
	計	—	—	0.49	—	290.99	291.48
天然更新	天然下種 第1類	—	—	—	—	—	—
	天然下種 第2類	—	—	—	—	4.75	4.75
	ぼう芽	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	4.75	4.75
合 計		—	—	0.49	—	295.74	296.23

(6) 保育総量

(単位: ha)

区 分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源涵養 タイプ ^{かん}	合 計
保 育	下 刈	1.04	—	1.96	—	540.85	543.85
	つる切	0.26	—	0.49	—	24.74	25.49
	除 伐	1.71	—	0.56	—	4.81	7.08
	ぼう芽整理	—	—	—	—	—	—
	計	3.01	—	3.01	—	570.40	576.42

3 林道の整備に関する事項

基幹 ・ その他別	開設 ・ 改良別	路線名	箇所 (林班)	延長 (m)	備考
その他	開設	前之浜8林道	6、7	1,500	
		熊ヶ谷9林道	9	1,200	
		権現ヶ尾林道	46	1,000	
		神之園・52支線	52	1,000	
		牧之谷林道	53	600	
		夏木林道	54	500	
		上宮・57支線58分線	57、58	900	
		津ノ目林道	39	1,000	
		中河内42林道	42	1,000	
		立和名林道	59、60	1,000	
		豎山61林道	61、62	1,000	
		長城2002林道	2001、2002	1,000	
		長城2003林道	2003	700	
		東谷16林道	16、17	1,500	
		志那志中尾24林道	24、25	2,000	
基幹	改良	伏木林道	2007、2012	600	舗装等
		尾上ヶ林林道	21	600	舗装等
		大谷林道	22、24	1,000	舗装等
		山之寺林道	28、29	1,000	舗装等
その他	改良	荒平林道	8	700	舗装等
		牧之谷林道	53	600	舗装等
		権現ヶ尾林道	47	1,000	舗装等
		中河内林道	42	500	舗装等
		立和名林道	59、60	1,000	舗装等
		伏木林道2支線	2012	400	舗装等
		長城2012林道	2012	500	舗装等
		東谷林道	18	500	舗装等
		東谷林道19支線	18、19	1,000	舗装等
計	開設			15,900	15 路線
	改良			9,400	14 箇所

4 治山に関する事項

位 置 (林 班)	区 分	工 種	計 画 量 (箇所数又は面積)
3、5～10、13、14、16、21～36、38～40、42、43、 46～49、51～65、67～82	保安林整備	本数調整伐等	295 ha
24～26、36、42、46、47、49、2012	保全施設	溪間工	9 箇所
19、25	保全施設	山腹工	2 箇所
67	保全施設	その他	2 箇所
計	保安林整備		295 ha
	保全施設		13 箇所

5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

(1) 保護林の名称及び区域

種 類	名 称	既設 新設	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
	該当なし				

(2) 緑の回廊の名称及び区域

名 称	新設 ・ 既設	延長 (km)	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
該当なし					

6 レクリエーションの森の名称及び区域

種 類	名 称	新設 既設	面積 (ha)	位 置 (林小班)	選定理由	施業 方法	既存施設 の概要	施設 整備	備考
	該当なし								

7 公益的機能維持増進協定の名称及び区域

名 称	区 域 (林小班)	面 積 (ha)	森林施業 の種類	林道の 開設等	設定年及び 有効期間	備考
該当なし	民					
	国					

8 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

種類	名称	設定年度	面積 (ha)	位置 (林小班)	備考
試験地	マツノザイセンチュウ抵抗性苗の現地適応試験	H 7	0.87	76ち3	アカマツ、クロマツ
	鹿児島マツ現地適応2号試験地	H 8	0.96	76ち2	アカマツ、クロマツ
	鹿児島マツ現地適応3号試験地	H 8	0.94	73わ	アカマツ、クロマツ
	マツノザイセンチュウ抵抗性苗の現地適応試験	H 9	0.76	76り	アカマツ、クロマツ
	マツノザイセンチュウ抵抗性苗の現地適応試験	H 9	1.16	73わ1	アカマツ、クロマツ
	マツノザイセンチュウ抵抗性苗の現地適応試験	H10	0.72	73へ1、と1	アカマツ、クロマツ
	抵抗性クロマツ(実生後代)の現地適応試験	H13	0.12	82は1	クロマツ
	抵抗性クロマツ(実生後代)の現地適応試験	H13	0.24	80い2	クロマツ
次代検定林	九熊本第16号 (第2試験地)	S46	0.72	17は	スギ
	九熊本第40号	S49	1.50	25ら、む	ヒノキ
	九熊本第47号	S50	1.48	2003の	ヒノキ
品種別展示林	品種別展示林	S44	1.90	62な	スギ
施業指標林	間伐施業指標林	S60	0.35	8に2	スギ

(2) フィールドの提供

対象地 (林小班)	設定の目的	備考
67い、ろ7、ろ8、は5、と、と3、と4	遊々の森	平成26年4月1日協定 青松の森 (代表 いちき串木野市長)
55て1	多様な活動の森	平成28年10月4日協定 こいやま八重の会
73ぬ、る、る1	多様な活動の森	平成29年10月19日協定 入来浜自治会

(3) 森林共同施業団地

名称	対象地 (林小班)	面積 (ha)	連携した施業の内容	備考
鹿児島地域森林整備推進協	民	365	路網の整備 間伐の方法 間伐材の販売等	
	国	631		
南薩地域森林整備推進協	民	4,034	路網の整備 間伐の方法 間伐材の販売等	
	国	985		

(4) その他

レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業方法

位 置 (林 小 班)	面積(ha)	施 業 方 法
56ほ、ち、67ろ、ろ1、ろ7、へ、と1~と3、ち、85へ~ち、2005ち、ち1、2006い、い1、2097む、お、く	87.92	天然生林へ導くための施業
55て1、67い、ろ2~ろ6、ろ8~ほ、と、と4、と5、ぬ~よ、2097う1、の1、く1	48.19	育成複層林へ導くための施業
67イ~ワ、タ、	1.58	林地以外の土地

注 ふれあいの森その他森林空間利用タイプに設定している施業指標林、試験地等を除く。